

平成30年度
上砂川町ケアサポーター養成講座

実施レポート VOL.1 第1回 スタートアップ 「幸せと福祉」

福祉課保健予防係 地域包括支援センター 社会福祉協議会

はじめに

各回の講座を振り返るときの参考として頂こうと、このレポートを作成しております。

ご参加下さったみなさまや、希望された方などに送付させていただいております。お渡しいたしました緑のファイルと共に、是非ご活用ください。

また、上砂川町社会福祉協議会のホームページにおいても、今回使用したスライドと併せて掲載しております。是非ご覧ください。

みなさまの今後の思案や活動の一助となれば幸いです。



スタートアップ

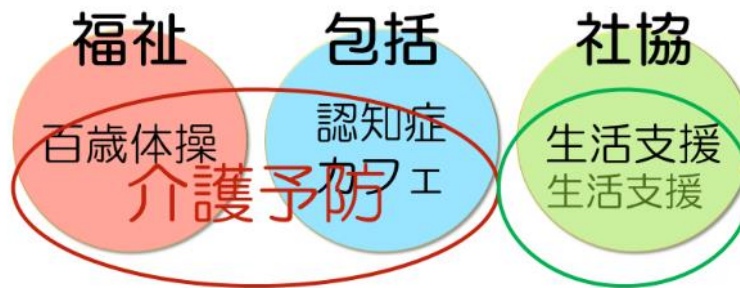
いつもは課長さんや局長さんのごあいさつから始まるはずの養成講座ですが…

今年は“下っぱ三人衆”の「ど～も～！」からスタートしました。講師の池田先生も、つられて「ど～も～！」



ど～も～！

今のしくみ



目指す

からだ・こころ・生活

幸せ

みんなで一緒にやろう！

何かが違います。司会が三人も居ます。集まっている方々も、さまざまな様子です。

今年は何が違うのか、どこを目指して行くのかという話が、社協の飯酒盃から紹介されました。

キーワードは

「みんなで一緒に！」

これからの上砂川

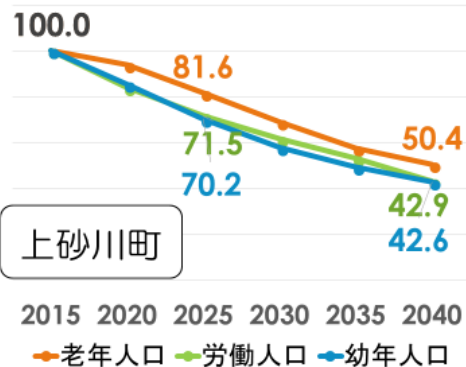
高齢者の数も含めて、すべてが減って行く厳しい状況のなかで、どこに希望を持ったら良いのか…？

これからの上砂川はどうなっていくのか、国が出した予測をもとに、みなさんと一緒に想像を巡らせてみました。

今ある状況を、どうやったら活かすことが出来るのかを、この先色々と考えて行けたら楽しそうですね。



世代別人口推移予測



《注目ポイント》

全てが減っていく！

全国すべての市町村が、
いずれは迎える道

日本の手本となる可能性

町にある全ての力を集めて

【出典】
国立社会保障・人口問題研究所より（平成30年2月
28日） 飯酒盃作成

3つのかたち



行政に引っ張ってもらいたい！



市場のしくみに任せたい！



自分(住民)の意思を形にしたい！

住民の意思を重点に置く場合

■ 長所

生活に密着した、柔軟で細やかなサービスを提供できる。

■ 短所

サービスの提供が不規則、不安定になることが多い。

やるか、やらないか、自己判断が頼りです。

福祉のかたち

主催者一同、度胆を抜かれたのが、このコーナーです。

まちの福祉を、どんなスタイルで作って行くのかを考えるときのヒントとして、3つの形を提示してみたのですが、参加されたみなさまのほとんど全てが「私達で何とかしたい」という選択をされました。

もともと意識の高い方が多い町だとは感じていましたが、ここまでとは予測していませんでした。

感動させられるとともに、行政・市場・住民によるバランスのとれた福祉を目指して進まねばと、心新たに覚悟を決める時間となりました。

福祉とは 一人ひとりを大切にすること ①

休憩を挟んで、いよいよ池田ひろみ先生（北海道総合福祉研究所 事務局長）の講演となります。

テーマは大きく分けて3つです。

1. 福祉とは、すべての人が今よりもっと幸せになることを願うこと
2. 「ほっとけない」が福祉の原点
3. すべての人が当たり前に幸せでいられるために

前段のスタートアップとはまた違った雰囲気、心に留めたいお話がたくさんありました。



福祉とは 一人ひとりを大切にする事 ②

1. 福祉とは、すべての人が今よりもっと幸せになることを願うこと

幸せってなんだろう？福祉ってなんだろう？ ということを考えるときの第一歩として、「誰かの幸せのために、他の誰かが不幸になるのはおかしい！」「自分も、そして自分以外のすべての人も幸せに」という大前提が示されました。

最近のニュースでも目にする、こども虐待のケースのお話しは衝撃的でしたね。
虐待を受けるこどもだけではなく、その親へも焦点を当てて、全体の幸せを考えていく。「すべての人」とは、そういうことなのかと、考えさせられました。

また、余裕がなくなってくると、どうしても自分のことばかりになってしまう…ということも心に置いておきたいですね。



福祉とは 一人ひとりを大切にすること ③

2. 「ほっとけない」が福祉の原点

2段目は、私達が「ほっとけない」のはこういった時なのか？どうしてなのか？ というお話しでした。

他の人の状況を自分に置き換えて「もしも自分だったら、どう思うだろうか？どうするだろうか？」という想像力や感受性を働かせながら、私たちは社会で生活しています。

福祉の分野に限らず、想像力や感受性は豊かな人間社会を作り出すみなもとですね。日々の生活のなかで、より一層磨いていきたい、大切な事柄です。



福祉とは 一人ひとりを大切にすること ④

3. すべての人が当たり前に幸せでいるために

3段目は、幸せと支え合いについてのお話でした。

日々の当たり前の生活を過ごすことが出来る。それがまずは幸せです。

しかし、病気やケガなどで当たり前のことが出来なくなったときには、それもひとつの人生として、「良い意味での妥協」をして受け入れることも大切です。

ただ、どんな状況の中でも、どうしても諦められないことを抱えながら生きているのが人間です。

そういった人たちを目の前にしたら、自分には何が出来るだろうか…？



支え合いの活動は、無理をしたり歯を食いしばって行うものではありません。

自分は、どのような人にどのような事なら出来るのか、自分が支えられる立場になったらどのように支えられたいのか、ぜひ、今この時から想像していきましょう。

第1回まとめ

平成30年度上砂川町ケアサポーター養成講座 第1回「幸せと福祉」は、みなさまのご協力のもとで、つつがなく終える事が出来ました。有難うございました。

これからの上砂川について想像し、福祉の様々なかたちについて考え、幸せや福祉の基本的な事について学ぶことができました。

2時間の長丁場でしたが、如何でしたか？ 第2回以降の内容に反映いたしますので、是非みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。

今回お寄せ頂きましたご意見の中から、おひとつですがご紹介させていただきます。



福祉・幸せ…幅広い捉え方があり、普段はあまり深く考える事ありませんが、講座に参加して、ひとの立場に立って物事を考えていけるようになれば良いと思いました。

行政・市場・住民それぞれの立場で何が出来るか、(具体的な)問題の提起などがあれば良いと思います。

《東鶉地区参加者》

第2回のごあんない

誰かに自分の想いを伝えることって、難しくありませんか？
誰かの想いを受け止めることって、難しくありませんか？

想いのキャッチボールが上手くいけば、世の中がチョット上手く回るはず！
ということで・・・

平成30年度 上砂川町ケアサポーター養成講座 第2回

伝えかた・聴きかた

7月27日（金）13：30～15：30

町民センター 大ホール

お誘いあわせの上、是非ご参加ください！

お問い合わせは、上砂川町社会福祉協議会 ☎62-2882（いさはい）まで お気軽に！

あとかき

平成30年度ケアサポーター養成講座がはじまりました。

昨年度は様々な新しい活動が始まった、いわば激動の年でした。

福祉課からは「百歳体操・介護支援ボランティア」や「ぷちもえ」、地域包括支援センターからは「認知症カフェまちなか」、社会福祉協議会からは「生活支援交流サロンよってけ場」と、それぞれがそれぞれの立場でサポーターやボランティアを募集・養成し、活動を始めました。

活動が始まるのはとても良い事なのですが、結果的に、しくみがとても複雑になってしまっています。

行政も、社協も、ボランティアやサポーターのみなさまも、見ている方向はきっと同じです。

「最後まで楽しく、安心して暮らし続けることができる町を作りたい！」

ならば、皆で一緒にやっ払いこう。それぞれが得意なことを活かしながら、どんどん横に繋がって行こう。

この養成講座はサポーターを養成するためのものであると同時に、行政や社協を養成するためのものでもあると思っています。

今年から、住民にとって分かりやすく、物事に参加しやすい環境を作っていこうと、福祉課・地域包括支援センター・社会福祉協議会が枠を超えて手を組みます。そしてみなさまと一緒に手を取り合い、少しずつ前に進みたいと思っています。

平成30年度がその前進の第一歩とならんことを、そしてこの養成講座が、まちづくりの礎のひとつとならんことを願ってやみません。上砂川ならではの福祉を実現させるために、みなさまのご参加とご指導ご鞭撻を、今後ともよろしくお願いいたします。



福祉課保健予防係	保健師	小林 京子
地域包括支援センター	保健師	内野奈穂子
社会福祉協議会	SC	飯酒盃琢一